

対州馬の疾走に観客から熱い声援！ 第5回対馬初午祭



8頭が出走。騎手は福岡市の乗馬クラブのメンバーに加え、地元対馬からも初めて参加しました。

地域の伝統行事である「馬跳ばせ」の復活と、対州馬の保存、育成、活用により地域の活性化を図ろうと第5回対馬初午祭（同実行委員会主催）が10月29日、上県町瀬田地区の目保呂ダム馬事公園で開催され、対州馬によるレースが約1500人の観客を沸かせました。

「馬跳ばせ」は、旧暦6月の最初の午の日に男児の健やかな成長を願って行われた「初午祭」の余興として実施されてきました。

今年、地元元騎手が参加。今回の「馬跳ばせ」には、島内で飼育されている対州馬

父親に勧められたのがきっかけで、5月から週1回、目保呂ダム馬事公園の乗馬クラブで練習を続けてきたという佐護小学校4年生の豊田奈央さん（10歳）は、福枝号の騎手としてレースに出場。練習では落馬の経験があったそうですが、本番では緊張した様子も見せずに約300mの直線コースを無事完走し、見事大役を果たしました。

会場では、迫力あるレースの他、対州馬にふれあう乗馬体験コーナーや、盛りだくさんのイベントが催され来場者を楽しませました。



騎手として活躍した豊田奈央さん

第2回対馬シーカヤックマラソン大会 島内、国内、韓国合わせて63名が出場



美神社を午前10時にスタートした選手たちは、強い向かい風と波に見舞われながらも、力強くパドルを漕ぎ、次々にチェックポイントを通過していきました。

招待選手が順当勝ちしたシングルフルマラソン

カヤックに一人で乗り込み、30kmを走破する過酷なレースであるシングルフルマラソンの部で優勝したのは、招待選手の前川佳範さん（40歳・埼玉県）。全国の有名な大会で上位入賞を果たす実力者は、2位以下に大差をつけ、2時間26分27秒で2年連続優勝を飾りました。「今日はスリルがあつて楽しかった」と苛酷なレースを楽しむ余裕を見せていました。



優勝した前川佳範さん



親子レースを楽しむ参加者

また、開会式で選手宣誓した佐藤遼くん（13歳・福岡市西区）は、大人とペアを組みタンDEMハーフマラソンの部に出場し4位入賞。前日の親子レースでも、父親と出場して優勝するなど活躍しました。「対馬の海はとてきれいだ。来年も参加したい」と嬉しそうに大会を振り返っていました。遼くんは、カヤックを始めてまだ1年ほどのキャリアだそうです。



奇抜なコスチュームで大会を盛り上げた参加者

観光バスの通行に支障の枝を除去
高所作業車が大活躍



毎年、(株)九電工グループが実施している社会貢献活動「わやかコミュニケーション旬間」にあわせ、同対馬営業所の社員7名が高所作業車3台を使用し、道路沿いの雑木の枝の伐採を行いました。

場所は美女塚峠から韓国の観光客にも人気が高いという豆殿崎公園までを結ぶ約5kmの厳原町内の市道。雑木の枝が茂り、観光用大型バスの通行の支障となっていました。

作業は午前10時から終日行われ、九電工社員は使い慣れた作業車を巧みに操作し、人の手の届かない約4mまでの高さの枝をチェーンソーなどを使って次々に伐採しました。

作業には地元住民5名と対馬交通株から2名も参加。また、この日の内に処理しきれ

なかつたものについては、後日、地元の有志により伐採されました。

上対馬でまちづくり
ワークショップ

まちの将来像を考えよう！



10月22日、上対馬総合センターで、「第2回「対馬」北の玄関口地区まちづくりワークショップ」が開催されました。

このワークショップは、自分たちの住んでいるまちの将来をみんなで考え、アイデアを出し合って将来像を模索し、実践に向けた協議を行う事業です。

参加者は、「対馬」北の玄関口地区まちづくり研究会メン

バーと住民の参加希望者で構成され、当日は対馬の将来像について、積極的な意見交換が行われました。

今後このワークショップは2月上旬まで行われ、その後に住民報告会を開催いたします。

「小浦ダムをきれいにする会」
約60名が清掃活動



作業に励むみなさん

11月30日、厳原町の小浦ダムで「小浦ダムをきれいにする会」のメンバー約60名が貯水池周辺の公園及び道路の清掃活動を行いました。

昨年10月に完成したこのダムには、小学生の社会科見学をはじめ、公園、道路もウオ

キング等の利用者が多く、市民に気持ちよく施設を利用してもらうと実施されたものです。

作業は午前10時から行われ、参加者はダム周辺や約1.8kmのダム湖周回道路に散乱する空き缶や一般ゴミの収集、雑草の除去を行い2トントラック約1台分のゴミを集めました。「小浦ダムをきれいにする会」は、地元地区の住民、ダム関係の県・市職員などで組織された団体で10月31日に設立され、構成員は62人。同ダムの清掃・草刈り・美化活動に取り組みます。会では、今後、年2、3回の清掃活動を目指としています。



作業で集めたゴミ

ヒトツバタゴの咲くまち
「まちづくり植樹」開催



国道沿いに植樹を行う参加者

11月19日、上対馬町比田勝港埋立地で、まちづくり植樹が実施されました。

この植樹は、「対馬」北の玄関口地区まちづくり研究会が主体となった観光客受入の拠点整備を目的とした地域住民協力による植樹ボランティア活動です。

当日は、参加者約80名が植樹作業や清掃活動を行い、作業後は見違えるように美しくなりました。

鳥栖やまびこ研修団が来島

峰町の西小学校の児童と交流



対馬青年の家で交流する子どもたち

江戸時代に対馬藩が飛地として治めていたことなど、歴史的なつながりの深い佐賀県鳥栖市の鳥栖やまびこ研修団が10月28日から2日間、対馬を訪問し、地元の子どものちとの交流をはじめ、万松院などを訪問するなど対馬の歴史や自然を体験しました。

同研修団は、青少年の健全育成を目的に民間で組織する実行委員会が実施しているもので、昭和59年以来、毎年1回の研修旅行を続けています。対馬への訪問は平成3年、9年に続き3回目。鳥栖市内から応募した小中学生17名に加

え、リーダー役として高校生

大学生の6名も参加しました。一行は、フェリーあがたで

比田勝港へ到着。豊砲台跡や対馬野生生物保護センターな

どを訪問した後、宿泊先の対馬青年の家で西小学校の児童

9名と合流し、一緒に食事をしたり、グループに分かれて

寸劇を披露しあったりして交流を深めました。

参加者の一人、今回が初め

ての対馬訪問という鳥栖北小学校4年の松元美樹さんは、

「対馬は海や山など景色がきれい。ツシマヤマメコはとて

もかわいかったし、友達もできたので楽しかった。また来たいです」と、とても対馬を

気に入った様子でした。



ゲームを楽しむ子どもたち

韓国の大学生10名が上県・上対馬町へホームステイ



対面式の様子

釜山外国語大学の学生10名が、11月10日から4日間、上県町と上対馬町でホームステイしました。

学生たちは10日の夕方の上県町に到着。市役所上県支所でホストファミリーと対面した後、佐護湊浜シーランドステイジで懇親会に参加しまし

た。初め緊張していた学生たちも徐々に打ち解け、楽しもうに会話がはずんでいました。

学生たちは滞在中、ホストファミリーとの家庭生活だけでなく、上対馬もみじまつり

や上県町文化祭などに参加し、

日本の風習や食文化を楽しんでいました。

お別れ式では、短い滞在期間ながら本当の家族のように過ごしたホストファミリーと再会を約束し、笑顔と涙で別れを惜しみ帰国しました。



学生とホストファミリーの皆さん

上対馬町で親子英会話教室
賑わった県立学校地域開放講座

県立学校地域開放講座として9月5日にスタートした

「親子英会話教室」は、上対馬高校英語科職員2名（川添

保人教諭とALTEディビッド・リーズ氏）が担当し、上対

馬総合センターで計10回の講座が開かれ、定員を上回る24

名が受講しました。

講座ではゲームなどの活動を通して、「自己紹介の仕方」「数字」「色」「物の名前」

など身近な英語を学び、最終回には手作りの英文修了証書

が手渡されました。

参加した子どもの一人（10歳）は、「最初は少しわからな

かったけど、だんだんわかっ

てきて楽しくなってきました」と嬉しそうでした。

また、保護者の一人は「子ども向けでわかりやすく親子

で楽しめました。本物の英語に触れることができ、とても

嬉しかったです」と話しまし



元気に答える子どもたち